

浜松の農業の現状、新しい農業スタイル

先日の農水産課の講演を受講させていただきました。確かに浜松だけではなく、日本全体の農家の方々、国がかかえている問題だと思います。

しかし、今すぐ具体的に何をすればいいのか、あまり良い案も出てきません。

実際、私の家の農地（水田と畑）も自分で耕作できず、近くの農家の方に貸して耕作していただいているのが現実です。個々の農家の高齢化とそれを引き継ぐ後継者も減少し、手のつけられない土地も多くあります。

一人では何も出来ない、どうすればよいか。例えば農協の「農業指導員」などに相談しても、今は農協本来の仕事よりもお金をいかに集めるか、その方向に目が向いて、あまり話し合える人がいないのが現状です。

そこで、一人では具体的に出来ない農業を市民がグループを作り、農園を作って、自分の手で育てたい、野菜づくりをしようとして去年4月1日に「白羽ふれあい農園」を立ち上げました。今迄何ヶ所かで実際にグループづくりをしているベテランの指導者と共に、土地の整理、井戸掘、区画づくり（30区）、肥料、耕作器具、トイレなどを作り、申込者が好きな物を植え、収穫を楽しみにがんばっています。その間、農園（野菜）づくりの講習会を開催（2回）しました。参加者は若い人、また定年後の人生をどうして暮らそうかという方々、みんな元気にやっています。

個々で出来ない事をグループでまた、その人たちをサポートするボランティアが必要です。

人はどこで何をしているという話を聞いて、見学に来たり電話で問合せがあり、5月には「浜松市立白脇幼稚園」の園児と共に「さつま芋」の植えつけをし、成長を楽しみに待っています。

これからもみんなでどうするのがいいのか考え、実行に移していきたいと考えています。

農業について

日本の農家は低迷で経営が厳しくなっているのが現状だ。かつて生産が伸びた理由は農薬を沢山使うようになって病虫害が減ったことも伸びた事になると思う。

しかし環境問題がクローズアップされて、農産物の収穫にも限界がきた。生産活動と自然との生態系バランスがくずれてしまった。大気汚染・オゾン層の破壊・酸性雨など地球全体もおかしくなってきた。

食料不足の時代が来るとよく聞かされた。輸入に頼るのも安全ではない。農業が生き残る為には農業団体の意識の改善も必要だと思う。農村のプロに任せながら農村の経営者、兼業農家が役割分担して成長していくことが最も大事なことだと思う。さらに国産米を農協、農家（生産者）流通経路を正確にして出荷し、農作物は地産の小売りに適さないのは無人で出して無駄が出ないことも大切だ。

形が悪かったり、大きかったり、そろっていない野菜を無人販売するとよいと思う。

まちづくり講座(第3回)

《農業について》

現状分析と考察

アメリカの農業(穀物)戦略として、戦後最も成功した国は日本である。(アメリカ政府)
人は水と穀物の摂取が最低限必要である。しかし、穀物摂取量を見たときに、人が1に対して、牛の摂取量は3倍、つまり牛肉を食べると穀物は3倍必要となる。この事はある程度の人であれば誰も知っている事です。その上で、米戦略として、日本人に牛肉を食べるように仕向け、家畜方法を指導し、更には牛肉を加工してハンバーガー等の加工品を売り込む(マクドナルド戦略)。ケンタッキーは鳥、戦後給食のパン食化など、牛や鳥のエサである「コーン」、パンは「麦」、その他大豆などもほとんどが輸入に頼っている事は誰でも理解していながら現状の事である。私は、このアメリカの穀物戦略をもう一度見直すことが、国内、県内、浜松市の農業の在り方としてのヒントがあるように考えます。

世界の食戦略はしたたかである。

静岡県は他県と比べて温暖で気候に恵まれています。また、大都市圏の中央に位置し、運送費や食の鮮度を考えると、これもまたとても恵まれた環境にあります。自給消費に関しても、県外や国外から入れる事なく、ほぼ地場で消費できる規模であるため自給自足が可能と考えられます。これにプラス県外販売戦略や海外販売戦略を含めて、第6次産業として構築する事は他県より遥かに恵まれた環境である事はいうまでもないと思います。

静岡県、浜松市は日本でも最も農業に適した環境にあります。

これからの浜松市の方向性として第6次産業として『戦略ビジョン』が最も重要と考えます。

「浜松の戦略ビジョンは何か?」

- ・ 週差別育成栽培による量産化
 - ・ 海水利用水の栄養濃度を利用した栽培
 - ・ うなぎや豚などの養殖用のエサの開発(うなぎのブランド化が不可欠)
 - ・ 農業肥料の開発
 - ・ 企業との研究開発によるバイオエタノール事業化
 - ・ 環境を考えたコンビニなどの植物性容器や袋
- 等々

課題 浜松の農業の現状をふまえ、今後の農業の目指す方向について（自分にできること）

課題について述べる前に、先日のお話を伺った感想を述べさせていただきます。先日のお話を伺い、浜松市で農業に関して様々な取り組みがなされていることが分かりました。最近スーパーで多く見られる、「エコファーマー」の表示のある野菜が、環境を考えた取り組みであったこと、また農業がこれから発展性のある産業であるということに大変興味を持ちました。1つ1つの農家の持つ力は微力で、農業機器や肥料などに莫大な費用がかかってしまいます。そんな個々の力や発想を繋ぎ、大きな渦を創っていくことが大切だという意見が素晴らしいと感じました。また、それ以上に個を繋いでいくのが浜松市であるという意見に驚きました。飯田さんの言葉こそ、公共機関が今後担っていくべき役割なのではないかと感じました。

先日の話を踏まえ、今後の農業の目指す方向や、農業に対して今の自分にできることを述べさせていただきます。最近のエコ志向、食糧問題、食の安全性などの問題から、今農業に注目が集まっています。知り合いの方で、浜北で酪農をしている人がいますが、その方の話によると、最近の飼料高騰で牛のえさが十分にまかなえないそうです。しかし、牛乳の値段は変わらないそうです。世界の食糧問題の影響が、小さな農家に影響を及ぼしていることに驚きました。1番大変な思いをしているのは、そういった末端の小さな農家ではないでしょうか。今後、健康志向が高まり、安全な食べ物を手にしたいという人々の思いは一層強まると考えます。我々消費者ができることとして、本当に大切なものは何かじっくりと見極めること、そして、生産者の顔が見え、思いの伝わる商品を選ぶことが大切であると感じます。

また、篠原で有機野菜を育てている農家の方は、規模が小さいながらも、地域の子どもを田畑に呼び、農業体験をさせているそうです。小さい子どもたちが田んぼで力いっぱい遊んでいる姿は、見ていてすがすがしいものでした。家の中でゲームを相手に遊ぶのではなく、体をいっぱい動かして自然の中で遊ぶ。今子どもたちに1番必要なことではないでしょうか。これからの農家は、農作物を作りながら、地域に住む多くの人とつながり、体験の場を提供する役割も担っていくことが求められるように感じます。また、そんな農家と学校が繋がっていくことで、よりよい教育活動を行い、子どもたちの心の教育に繋げていくことができたらと感じています。有意義なお話、ありがとうございました。